

4年生が「みどりのフォーラム 2019」で発表しました



4年生を代表して16名の人たちが11月10日(日)に開催された「みどりのフォーラム 2019」(主催:豊中みどりの交流会、共催:豊中市、後援:豊中市教育委員会)のステージで、「緑のカーテン」に取り組んだことを発表しました。

4年生は6月初めに豊中みどりの交流会の入江さんに来ていただき、ゴーヤの植え付けを教えてくださいました。その後ゴーヤはぐんぐん生長を続け、校舎の2階の高さまで伸び、ゴーヤの実も4年生全員に配れるほど実りました。その成果が認められ、今回の発表となったのです。

ゴーヤ実行委員を中心として土づくりをしたり、夏休みも分担して水やりをしたりしながら大切に育て、無事、理科の学習と環境についての学習を終えることができました。全員で取り組んだ成果ですね。代表して発表した16名のみなさん、わかりやすい内容で、しっかりと発表できていてよかったですよ!



全国学力・学習状況調査の結果より...

4月18日に6年生対象に全国学力・学習状況調査が行われました。国語、算数の2教科と児童質問紙による調査でした。調査の目的は、学校としての課題を分析し、今後の授業に活かすことです。昨年度までは、国語と算数はA問題(基本的な内容)とB問題(応用的な内容)に分かれていましたが、今年度からはABに分けずに、基礎的な内容から応用的な内容までを一つの国語、算数として出題されました。昨年度あった理科は、3年に一度の出題なので、今年度はありませんでした。国語、算数の2教科とも概ねよくできていて、大阪府や全国の結果との比較でいえば平均正答率は、全国平均よりもやや上回る結果となっています。



【国語】文章の内容理解(読み取り)に関する問題は昨年度もそうでしたが、概ねよくできていました。読解力を身につけた児童が多いことがうかがえます。正答率が低かった問題は、いずれも「書く」ことに関する問題でした。

- 問題文の空欄にふさわしい文章を、問題文の他の部分の言葉や文を取り上げる条件を満たしながら指定の字数内で書く。条件が増えると、ぐっと正答率が下がるのは全国的な傾向です。
- 漢字の問題...3題出題された内、「対象」と「関心」の正答率が低かったです。「タイショウ」には「対照」「対称」、「カンシン」には「感心」などの同音異義語があるので迷ったようです。
- 長い一文を接続詞を使って二文に分けて書く時の、一文目の終わりと二文目の始めを書く。国語の時間だけではなく、他の教科の中でも「書く」ことへの取り組みを増やして、まずは「書く」ことへの抵抗を減らすことが必要だと感じました。

- 今回の問題文は、大きく3題でしたが、その内容は、
1. 小学生が公衆電話について調べたことを報告する文章。
 2. 小学生が「食べ物の保存」について調べたことを紹介するための、ノートの文章。
 3. 小学生が豊職人をクラスに紹介するためのインタビューの文章。

かつて国語の問題の定番だった、物語や詩を読み「心情を読み取る、味わう」問題は全くなく、「調べたことを整理してまとめたり、プレゼンしたりする力」が重視される傾向が顕著です。前述のように、色々な教科や校外学習、社会見学等の機会を利用し「調べる」「まとめる」「報告(説明)する」ことに取り組んでいきたいと思えます。

【算数】概ねよくできている中、正答率が低いのは「書く」問題です。課題は国語と同様「書く」=「論理的に説明する」ということがいえます。今回の算数では、次のような説明の問題が出題されました。

- 式を見て、どのような考え方で図形の面積を求めたか説明する。
 - 二つのグラフから導き出される事実について説明する。
 - 計算の工夫について説明する。
- 従来の算数のパターンである、「問題を読み、式を立て計算し、答えを導き出す」問題に比べ、難しいので、全国的にも正答率は低いのですが、今後ますますこのような「論理的な思考」「説明力(プレゼン力)」が求められることとなります。「どのように考えたら答えが導かれるのか」「立てた式の意味」などを実際に説明する習慣づけが大切になってきます。「書く」問題の他、正答率が低かったのが「 $6+0.5 \times 2$ 」の計算です。四則計算のルールや位をそろえることがあいまいになっていて、「13」や「2.2」「22」と解答した児童が1/3以上いました。以前学習した内容の復習も関連した授業の中や、授業の合間などに入れ込んでいけばと思えます。